

中高一貫フォローコース

学力確認

基礎力習得

単元別強化

応用力養成

◎ 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	トライ模試		トライ模試		トライ模試		トライ模試		トライ模試
トライ対策スケジュール	トライの夏特訓		定期テスト対策			トライの冬特		学年末対策・総まとめ	
	<ul style="list-style-type: none"> ・現状学力の確認 ⇒5教科の単元別詳細まで ・学習習慣の改善 ⇒学習の意識・習慣改革 ・苦手単元 ⇒夏休み中に苦手は克服 		<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫校ならではの、早い進度・難易度の高い定期考査に対応するための学習習慣を身につけ、定期テスト前には、指導時間を追加し、しっかりと対策をとります。 ・将来の目標とする学校（職業）がある場合は、先を見据えた実力を付けていきます。 			<ul style="list-style-type: none"> 約半年の指導にて、ご本人の得意分野・不得意分野を把握した上での苦手克服を行います。 		<ul style="list-style-type: none"> 学年末対策を行い、この学年の総まとめを行います。 来年度の目標もはっきりさせ、予習にも入ります。 	
ポイント	・前学年の学習範囲を1ヶ月で総復習及び苦手単元抽出。苦手単元を理解させるための基本を徹底授業。	・現学年の学習範囲を総復習及び苦手単元抽出。さらに演習力を鍛えるため、演習問題を日々20~50題解く。	学校の授業を中心に演習問題を増やし、応用力を養います。日々の勉強のやり方、復習法を教えていきます。	学校の授業を中心に演習問題を増やし、応用力を養います。日々の勉強のやり方、復習法を教えていきます。	定期テストの範囲を何度も取り組みます。前回比プラス30点を目指します。テストに向け多くの問題をこなしていきます。	冬特訓 現学年の総復習を行います。冬休み中に全単元を見直し、出来ない単元を無くしていきます。	冬特訓 現学年の総復習を行います。冬休み中に全単元を見直し、出来ない単元を無くしていきます。	定期テストの範囲を何度も取り組みます。前回比プラス30点を目指します。テストに向け多くの問題をこなしていきます。	春特訓 現学年の総復習を行います。また、来年度に向け良いスタートダッシュを切れるよう準備していきます。

◎ こういう生徒にお勧め！

- ・一貫校での学校の授業についていけない。
- ・体系数学/プログラムの指導をしてほしい。
- ・日々の勉強の仕方が分からない。

◎ 対象学年

中高一貫校の生徒様

◎ 指導の進め方

学校別に、
 ①ご本人の現状学力
 ②学校の教科書
 ③定期試験のレベル
 ①②③を分析の上、必要な指導時間を割り出し、具体的な目標を持って指導を行います。

◎中高一貫校フォローコース ポイント

国語	<p>普通の学習においては、軽く見られがちですが、やはり重要な教科です。国語は勉強すれば、ある時点を超えれば成績は急激に上がります。しかし、やればすぐに上がるという教科ではないので、忍耐強く続ける事も必要です。中学でも高校でも文章の読解力は必要ですし、1度上げておくと国語力は落ちにくいものですので、早いうちにしかりとした読解力を身に付けることで、以降の国語の勉強を楽にしていきます。また、古典分野の知識は詳細まできちんと覚えておく事も重要です。</p>
算数	<p>特に将来的に難関大学を目指す子にとっては、深い理解と高い思考力も要求されます。1つ1つの単元で、問題を正確に解けるように指導します。その為、しっかりと時間をかけ、深い理解をさせていきます。また、高い思考力を養うために、図に落とし込む練習・先生に逆に説明させるという指導も行います。難関国公立大学志望の理系の生徒には、高校2年生のうちにセンター過去問で7割以上取れるようになって頂きます。中堅国公立大学志望文型であっても、最低6割は取れるようにしておく必要があります。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史は「流れ」を把握することが大事。教科書を読み込み、おおまかな流れを掴む。そして、サブノートにまとめながら、細かいことがらを肉付けしていく。 ・地理は統計表・グラフ・地図などを利用した統計資料問題が中心になり、統計資料問題では、地理的知識を基礎にして資料読解力を用いて解く「地理的な考え方」が要求されるが、最低限の基礎知識を身につけておくことが必要。 ・教科書（もしくは解説の詳しい参考書）をベースに、サブノートなどを併用して基本的知識を身につけ、問題集で問題演習を。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・物理は、教科書や参考書を読んだだけでは問題が解けるようにはならないので、とにかく問題演習に取り組みたい。 ・生物は、センター試験では知識問題が約5割、考察問題が約5割。バランスの良い学習が必要。 ・地学は、勉強時間について、センター試験は「知識問題」重視なので、できるだけ毎日勉強するようすすめる。10分や15分でもよいので、毎日地学の勉強をするように。 ・化学は、基礎力が不十分だと応用力は養えないので、焦らずに、まずは基礎力を確実に養成したい。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・80分で計2,000語以上を読み、50を超える問題に解答しなくてはならないので、速読速解力の養成のために、標準的なレベルの英文を数多く読んでおきたい。 ・文法・語法の知識はすべての基本なので、問題集を利用して早めの対策を心がける事。 ・発音・アクセント関連の問題は、問題集を利用する他に、日頃の学習の中でも発音・アクセントを意識する習慣をつけておくことよい。特に、日本語と英語で発音・アクセントの異なるものは注意して学習すること。